

標記労働争議、経過左記、通ニ有之

一 事業主側ノ状況

事業主側ハ依然工場閉鎖ヲ固守シ居リ従業員トノ会见ヲ避ケントスルカ如キ態、夜ニテ常ニ居所ヲ転々シテ所在ヲ晦マシ居リ工場ニ対スル送電ヲ中止シ作業不能ナラシメタル俾工場ヲ放任シ居レリ

二 従業員側ノ状況

社員ト共同シ工場管理ヲ申出テタルニ拒絶セラレ刺ハ送電中止セラレ未製品ノ完成スラ不可能ニ陥リ財政的逼迫ニ伴ヒ事業主トノ会见ヲ要望シ居ルニ事業主、所在スラ判明セス息遣シ廿五日夜ハ莫相發表演説会ヲ開催シ輿論喚起ニ努メツ、アリ(演説会、状況左記、通)高松工ハ予テ横浜市宮都貿易商會ノ注之品(約三五〇円)ヲ仕上クヘク廿六日ヨリ一部ノ作業ヲ開始シ

廿七日正午頃發送セリ

三 應援組合

目下外部ヨリ、應援組合ナキニ全快日本化學労働組合ニ於テハ別添(内相答下ニシテ)ノ如ク概ノ金徳業工場ノ兄弟労働者誌長ノ又勇後ハ一人ヨリテ進出料然ストライキカノト類スル祝事ヲモノ及「斗争日報」ハ九月廿三日迄ニ第四號(別添同)迄發行シ居レルカ争議ノ指導者ヲ獲得スルカ如キ事ハ不可能ノ状態ニ在リ早ニ内部ノ状況ヲ探知スル爲メニ僅ニ連絡ヲルニ止マルモノ、如シ

四 将来ノ予想

職工並ニ其ノ父兄ハ争議ノ永續ヲ歎ヒ未払賃銀ノ支給アラハ工場閉鎖ヲ認メントスルカ如キ情勢ニ傾キツ、アリ解決ノ曙を藪谷ヲ認メラレ、ニ至レリ